
化学物質等安全データシート

1. 製品および会社情報

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 製品名 | : 殺菌剤BH |
| 推奨用途 | : 水溶性切研削油剤用殺菌剤 |
| 会社名 | : 株式会社アマダ |
| 住所 | : 神奈川県伊勢原市石田200 TEL: 0463-96-1111 |
| お問い合わせ先 | : オイルセンター 技術グループ |
| および緊急連絡先 | : TEL: 048-710-4510 FAX: 048-710-4517 |

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | |
|--------------------|----------------------------|
| 急性毒性(経口) | 区分4 (シンボル: 感嘆符、注意喚起語: 警告) |
| 皮膚腐食性 / 刺激性 | 区分2 (シンボル: 感嘆符、注意喚起後: 警告) |
| 眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 | 区分2A (シンボル: 感嘆符、注意喚起後: 警告) |

* 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

ラベル要素

絵表示またはシンボル



| | |
|-------------|--|
| 注意喚起語 | : 警告 |
| 危険有害性情報 | : 飲み込むと有害(経口) 皮膚刺激 強い眼刺激 |
| 注意書き | : 【本MSDSに記載されている注意事項を参照してください。】 |
| 最重要危険有害性 | |
| 人に対する有害な影響 | : 皮膚刺激性がある。 皮膚刺激性があり、皮膚に付着するとカブレや炎症をおこす。 また、鼻、気管支、眼などの粘膜を刺激する。 |
| 環境影響 | : 原液や高濃度では水性生物に毒性がある。 |
| 物理的及び化学的危険性 | : 通常の取り扱いでは危険性はない。 |
| 分類の名称 | : 腐食性物質 |
| 危険性 | : 配合する溶剤の多価アルコールは可燃性の性質がある。 |

3. 組成、成分情報

物質

| | |
|-------------|--|
| 単一製品・混合物の区別 | : 混合物 |
| 化学名又は一般名 | : 有機窒素硫黄系複合物および有機臭素系化合物 |
| 化学式 | : 特定できない |
| 成分および含有量 | : 有機窒素硫黄系複合物 非公開 有機臭素系化合物 非公開 水 非公開 多価アルコール 非公開 |

その他添加剤

非公開

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な風通しの良い場所へ移動し、速やかに医師の手当てを受ける。呼吸困難な場合には人工呼吸等を行う。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染した衣服を速やかに脱ぎ、直ちに触れた部位を多量の水と石鹸で十分に洗浄する。皮膚に発赤、刺激痛等の異常を感じる場合には医師の手当てを受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに清浄水で15分以上洗眼し、速やかに医師の手当てを受ける。(コンタクトレンズは、固着していない限り、直ちに外す)
- 飲み込んだ場合 : 直ちに水で洗浄うがいし、速やかに医師の診断を受ける。意識不明の場合には、口からなにも与えない。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水、二酸化炭素、乾燥砂、粉末消火薬剤、泡沫消火薬剤。
- 使ってはならない消火剤 : 消火に棒状の水を用いてはならない。
- 特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、または毒性のガスを発生するおそれがある。危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合は、容器を破損しないように注水し、冷却する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を絶つ。初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。注水は、火災を拡大し危険な場合がある。周囲の設備などに散水して冷却する。火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 防火服、防護衣、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム長靴。消火作業の際には、風上から行い必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 : 保護眼鏡、有機ガス用保護マスク、ゴム手袋、作業衣を必ず着用し、換気を行う。
- 環境に対する注意事項 : 公共用水域に流さないよう留意する。
- 除去方法 : 空容器に回収する。残分はオガクズ、ウエス等に吸着させ廃棄処分する。少量の付着分は多量の水で洗浄する。
- 二次災害の防止策 : 下水道・河川などに流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。危険地域から人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立ち入りを禁止する。室内で漏出した場合は、窓・ドアを開け十分に換気を行う。関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

- 取り扱い
技術的対策 : 長袖の作業衣、保護手袋、保護眼鏡、有機ガス用保護マスク、

ビニール合羽などを着用する。

吸入や皮膚との接触、目に入る可能性のある場合は、保護具を着用し出来るだけ換気の良い場所で作業する。指定する薬剤以外とは混合しない。

注意事項 : 製品容器の栓を開けるときは、液やガスの噴出する場合がありますので、少しずつ注意して栓をゆるめる。

安全取扱注意事項 : 漏れや、飛散を防ぐ為に、取扱いの都度、容器を密閉する。容器を転倒、落下させる等、衝撃を加える乱暴な取扱いをしてはならない。

使用前に取り扱い説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

取扱い後は手洗い、うがいをし、薬剤が付着した場合は必ず作業着を着替え洗濯する。

屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。

この製品を使用するとき飲食または喫煙をしないこと。

空容器に圧力をかけないこと。圧力をかけると破裂することがある。飲まないこと。

子供の手の届かない所に置く。

保管

保管条件 : 雨水を避け、風通しの良い冷暗所に密栓して保管する。盗難、紛失、落下などの事故防止に注意する。本剤は購入後6ヶ月以内に使用する。

8. 暴露防止および保護措置

許容濃度 : 設定されていない。

設備対策 : 屋内作業の場合には、出来るだけ密閉された装置、又は必要に応じて排気装置を使用する。取扱い場所の周辺に洗眼および身体洗浄のための設備を設け、その位置を明確に表示する。

保護具

呼吸器の保護具 : 有機ガス用保護マスク。

手の保護具 : 耐溶剤(耐油)性保護手袋を着用する。

眼の保護具 : 保護眼鏡を着用する。

皮膚および身体の保護具 : 状況に応じ、長靴、保護面、ビニール製合羽を使用すること。

衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと、うがいをすること。薬剤が付着した場合は必ず作業着を着替え洗濯する。

保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

作業中は飲食、喫煙はしない。

9. 物理的および化学的性質

物理的状态

形状 : 液体

色 : 無色～黄色透明

臭い : 特異臭

pH : 4.4(1%水溶液)

融点・凝固点 : データなし

沸点 : データなし

引火点 : なし

爆発範囲(爆発限界) : データなし

蒸気圧 : データなし

| | |
|-------------------|-----------|
| 蒸気密度(空気 = 1) | : データなし |
| 比重(密度) | : データなし |
| 溶解度 | : 水に均一に溶解 |
| n オクターノール / 水分配係数 | : データなし |
| 自然発火温度 | : データなし |
| 揮発性 | : データなし |

10. 安定性および反応性

| | |
|-------|--------------------------|
| 安定性 | : 通常の室温条件下では安定である。 |
| 反応性 | : 強アルカリとの接触により有効成分が分解する。 |
| 分解生成物 | : 現在までのところ、有用な情報なし。 |

11. 有害性情報

| | |
|------|---|
| 急性毒性 | |
| 経口 | : 経口 - マウス LD ₅₀ 雄 600 mg/Kg |
| 局所効果 | |
| 刺激性 | : 原液に触れると眼、粘膜、皮膚を刺激し、カブレや炎症を起こすことがある。 |
| その他 | : 現在までのところ、有用な情報なし。 |

12. 環境影響情報

| | | |
|---------|---------|---|
| 生態毒性 | 水生環境有害性 | : 魚類に対し毒性があるので、高濃度の薬剤希釈液や洗浄廃液が海洋、河川、養殖池、下水道、地中に流出しないよう十分注意する。 魚毒性 : ヒメダカ LC50 48h 11.6mg/L |
| 残留性・分解性 | | : 情報なし |
| 生態蓄積性 | | : 情報なし |
| 土壤中の移動性 | | : 情報なし |
| 他の有害影響 | | : 情報なし |
| 環境基準 | | : 情報なし |

13. 廃棄上の注意

| | |
|-----------|---|
| 残余廃棄物 | : 廃棄する場合は、専門の産業廃棄物処理業者に委託するか、安全上の対策をした排ガス洗浄設備の付いた焼却炉で少量ずつ焼却処分する。 |
| 汚染容器および包装 | : 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または知事等の許可を受けた処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|--|--|
| 取り扱いおよび保管上の注意の項により作業する。(転倒、落下、損傷、荷崩れ、直射日光、雨水などの防止) | |
| 容器からの漏洩がないこと、また、その恐れがない事を確認する。 | |
| 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬すること。 | |

15. 適用法令

| | |
|-------------|---------|
| 労働安全衛生法 | : 該当しない |
| 化学物質排出管理促進法 | : 該当しない |

毒物および劇物取締法 : 該当しない
消防法 : 非危険物

16. その他の情報

引用文献等 : 1) 日本産業衛生学会許容濃度等の勧告 (OELs)
2) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices. (ACGIH)
3) European chemical Substans Infomation System
4) (独)製品評価技術基盤機構(NITE)

本剤は産業用の防腐防カビ剤として広く使用されております。

- (1) 危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。
 - (2) この製品安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の取り扱いを対象としたものです。
 - (3) 本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
 - (4) ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証もするものではありません。また、法令の改正および新しい知見に基づいて改訂されることがあります。
-